

# 1 事業報告書

平成 27 年 4 月 1 日より平成 28 年 3 月 31 日までの事業概略を項目ごとに、ご報告申し上げます。

## 当協会の概況

平成 27 年度の当協会の主な事業として、育英事業、展覧会事業、パブリックアートの普及事業、国際交流事業などを推進して参りました。

育英事業として「瀧富士基金」奨学生及び「国際瀧富士美術賞」奨学生に奨学金の給費及び貸与を行いました。また展覧会事業として「交通総合文化展 2015」を開催しました。

また、パブリックアート普及事業においては、昨年 4 月から今年 3 月までの 1 年間に米子空港、JR 北海道の新函館北斗駅など計 6 カ所にステンドグラスや陶板レリーフの作品を設置しました。

## 当期の特記事項

当期は、3 月に JR 北海道の新函館北斗駅の自由通路にパブリックアートとして多摩美術大学の前学長、五十嵐威暢先生のステンドグラス作品が設置され、514 作品目となりました。

本年度も一般財団法人日本宝くじ協会にパブリックアートの普及事業の助成申請をしましたところ 108,756 千円の助成が認められ、パブリックアート 3 作品を設置致しました。

## 活動状況

当年度の主な活動内容を項目ごとにご説明申し上げます。

## I. 公益事業

### 1. 育英事業

#### (1) 瀧富士基金

「瀧富士基金」第 49 期奨学生の貸与生募集をしましたところ、本年は 33 名の応募がありました。

選考委員会を 8 月 24 日（月）に開き、厳正な審査の結果、33 名の貸与生が新たに決まりました。また、貸与生のうち特に成績優秀な学生の中から貸与奨学金の全額または一部の返還を免除する給費生を 7 名選びました。また、貸与

奨学金が増額される特待生を 10 名選考しました。

## (2) 国際瀧富士美術賞

もう一つの育英事業である「国際瀧富士美術賞」は第 36 期を迎え、第一次審査会を 8 月 19 日 (水) に、第二次審査会を 9 月 16 日 (水) に行ない、国内 11 美大 15 名、海外は 10 カ国 9 美大 9 名の計 24 名の受賞者を選びました。受賞者の中で特に優れた学生に与えられるグランプリには東京藝術大学の学生が決まりました。授賞式は 11 月 19 日 (月) に、ザ・キャピトルホテル東急で行われ、引続きもたれた懇親会には受賞学生、指導教官のほか、アカデミー、実業界、官界などの関係者に出席していただき、交流を図りました。

## 2. 展覧会事業

### (1) 交通総合文化展

「交通総合文化展 2015」を「10 月 14 日 鉄道の日」の関連事業として、10 月 15 日 (木) ~20 日 (火) の 6 日間、JR 東京駅の丸の内地下南口「動輪の広場」特設会場で開催致しました。

「交通文化賞」の創設を記念して 1954 年 (昭和 29 年) に発足した文化展は、本年で 62 回の歴史を刻みました。今年も、「写真」(新日本観光写真展) 及び「俳句」の 2 部門に加え、パブリックアート普及特別展の展示も行ないました。

会期中、多くの人に観覧していただき、盛況のうちに無事に終了しました。同時に開催された日本画、洋画、書の大家、中堅作家の新作展である「溯瀧会」には、日本画家の鈴木竹柏先生(文化功労者)、洋画家の野見山暁治先生(文化勲章)、書家の高木聖鶴先生(文化勲章)など有名作家の作品 33 点を展示しました。また日韓親善観光写真展を併設展示しました。

### (2) 原宿ファッションジョイボード文化展

JR 原宿駅の大型看板 17 面を使った「原宿ファッションジョイボード文化展」では、「IT 社会を守る、育てる、“頼れる IT 社会”の実現を目指して」キャンペーンを平成 27 年 4 月 10 日から 10 月 8 日まで開催しました。

## 3. パブリックアートの普及・振興事業

当協会は長年にわたってパブリックアート作品の制作、並びに普及活動を行

ってきました。本年度は、JR 北海道新幹線の新函館北斗駅の自由通路に、多摩美大の前学長で、彫刻家・デザイナーの五十嵐威暢先生の「ムクムク 水と光と大地に捧げる詩」を設置し、これで 514 作品目となりました。3月19日に行われた点灯式には、北海道の高橋はるみ知事、国土交通省の武藤浩・国土交通省審議官、本田勝・前国土交通省事務次官、北海道旅客鉄道株式会社の島田修社長、高谷寿峰・北斗市長をはじめ多数の関係者が参加され、盛大に式典が行われました。点灯式の後は函館大沼プリンスホテルで懇親会が開催されました。

#### (1) パブリックアートの普及・振興

一般財団法人日本宝くじ協会は、公益法人等が行う公益事業への助成を平成27年度も実施することになり、本協会として「平成27年度パブリックアート普及事業」を申請しました。この結果、助成が認められ、次の3カ所に作品を制作・設置致しました。なお助成額は108,756千円です。

- ① 題 名：「昔話桃太郎」  
素 材：ステンドグラス  
設置場所：岡山県・岡山空港ターミナルビル2階  
作 家：日本画家 森山知己（もりやま・ともみ）先生  
寄 贈 先：岡山県・岡山空港ターミナル株式会社（第三セクター）に無償譲渡  
委託契約費：34,884千円
- ② 題 名：「シュ、シャ、シッ 空と水と光に捧げる詩」  
素 材：陶板レリーフ  
設置場所：釧路空港ターミナルビル2階  
作 家：彫刻家・デザイナーの五十嵐威暢（いがらし・たけのぶ）先生  
寄 贈 先：北海道・釧路空港ビル株式会社（第三セクター）に無償譲渡  
委託契約費：37,962千円
- ③ 題 名：「妖怪たちの森」  
素 材：ステンドグラス  
設置場所：米子空港ビル2階ロビー  
作 家：漫画家 水木しげる

寄 贈 先：鳥取県・米子空港ビル株式会社に無償譲渡  
委託契約費：35,910 千円

(2) 「くれあーれ にゅーす」

パブリックアートの普及を図り、本協会の活動とクレアーレ熱海ゆがわら工房を紹介するため「くれあーれ にゅーす」第 11 号を平成 27 年 9 月に発行しました。

第 11 号は、昨年 3 月 12 日、仙台空港で漫画家・大友克洋先生原画による陶板レリーフの除幕式が行われた機会を利用して、空港ビル 1 階の広場で行った特別座談会を掲載しました。座談会には宮城県の村井嘉浩知事、国土交通省の本田勝事務次官、大友先生、建築家の隈研吾氏の 4 人が出席され、当協会の滝久雄理事長の司会で、東日本大震災の復興と町づくり、パブリックアートの普及・振興などについて活発な議論が交わされました。

また本号では、「1 パーセント・フォー・アーツ (One percent for Arts)」を日本でも実現すべく特集を組み、五十嵐思っております。

(3) 「1%フォー・アーツ」の法制化を求める運動

パブリックアート普及の一環として、『1%フォー・アーツ』の法制化実に向けてご賛同のお願い」を各界の識者、関係者に本年 2 月から

その他

当協会は、パブリックアート普及及び若手芸術家の育成ために、研究資金を支援しました。

#### 4. 国際交流事業

(1) 新日本観光写真展及び日韓親善観光写真展

この展覧会は、訪日外国人の皆様に日本の文化・芸術や観光地を紹介するため、交通総合文化展に併設、展示しました。

(2) 国際瀧富士美術賞で来日した外国の受賞者 9 人と指導教官 3 人が、日本人受賞者 15 人と共にクレアーレ熱海ゆがわら工房を訪問。パブリックアートの制作現場を見学し、一緒にワークショップに取り組むなど交流を図りました。

(3) 国際アマチュア・ペア碁選手権大会

第 26 回国際アマチュア・ペア碁選手権大会は、世界 21 カ国・地域の代表と

国内各地区（8ブロック）の代表 32 組 64 名の参加を得て 2015 年 12 月 5 日（土）、6 日（日）の両日、東京・飯田橋のホテル メトロポリタン エドモントで開催しました。結果は、韓国代表ペアが優勝し、日本の関東・甲信越代表ペアが準優勝でした。

一方、一般参加で人気を博している「荒木杯ハンデ戦」は棋力別 3 ブロックに分かれ、今年は 129 組 258 名が出場しました。

今回は、ベストドレッサー賞の審査委員長にデザイナーのコシノ・ジュンコさんをお迎えし、ベストドレッサー賞の上位 3 組と、海外特別賞 1 組を選びました。

なお、本協会は、日本の文化・芸術を紹介する写真パネルを会場に展示し、外国から参加された方に、日本の文化・芸術を紹介しました。

## 5. その他

### 藝術アカデミー構想検討委員会

昨年 6 月から、パブリックアート振興のため「1 パーセント・フォー・アーツ」を日本で実現すべく各界識者と意見交換を続け、またクレーレ工場の将来構想について検討を重ねてまいりました。今後はこの 1 年目の成果を踏まえ、クレーレ工房を中心とした芸術文化拠点のさらなる活性化と共に、地域や諸大学などとの連携を深めていきたいと思っております。

## II. 収益事業

### 1. 環境芸術にかかわる各種コンサルティング事業

陶板レリーフ、スタンドグラスあるいは立体作品を主に駅等の公共スペースに設置するパブリックアート作品の制作に対して、各種のコンサルティングを行い、収入を得ました。

### 2. 不動産賃貸業

当財団が保有している工房等（クレーレ熱海ゆがわら工房、信楽工房など）の施設を賃貸し、収入を得ました。

以上